

副編集長就任にあたって

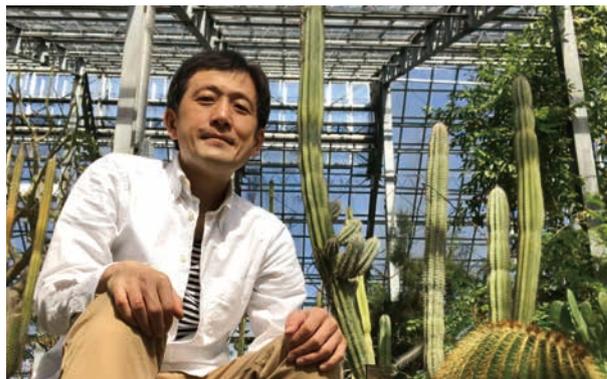
「雑誌メディアで繋ぐという挑戦」

大山恵弘 (筑波大学)

このたび会誌副編集長の職を拝命いたしました。今までに編集委員や編集業務の経験がないにもかかわらず副編集長の職をいただいたことに、身の引き締まる思いとともに、新たな取り組みができることにわくわくしています。会誌の編集に以前からかかわられている方から十分にアドバイスをいただきながら仕事を進めたいと思います。編集長も紙メディアの編集の経験は一切ないとのことですので、むしろ先入観にあまりとられない会誌作りができる可能性があるというポジティブな面に目を向けていきたいと思っています。私は一読者としては20年以上に渡って会誌を購読しており、興味のある記事や視野を拡げてくれそうな記事を中心に、毎号楽しみながら読んでいます。会員の皆様、何とぞよろしくお願いいたします。

編集長からは会誌に関して「情報処理X」と称した新たな取り組みが打ち出されています。私も、社会、領域、世代を繋いでいく、掛け合わせるメディアとしての会誌の役割を継続的に考えていきます。現在は世界に情報が溢れており、会誌のようなメディアの意義は何なのかを考えることが過去に何度もありました。会誌で伝えられているのと類似の情報はほかのメディアでも入手できます。「なんで多くの人が多大なコストを払ってこんな雑誌を作っているんだろう。なんで続けているんだろう」と思うこともありました。会誌に相当するものを発行していない学会もあります。ただ、会誌がない本会を想像しますと、それは何かが違う気がしました。年に12回やってくる刺激の源を失ってしまったような感覚を覚えたのですが、その感覚には会誌の「繋ぐ」という側面が関係していると推測しています。人やコミュニティを掛け合わせ、繋ぐメディアとして、会誌を一から捉え直していきたいと思います。

繋ぐことはソーシャルメディアが得意としています。人と人、グループとグループなどを繋ぐことを意識して作られており、世界の多くの人に普及した現在においてもまだ驚くべき速度で進歩し続けています。このようなメディアがある中で雑誌メディアが存在意義を提示することは、大きな挑戦であるといわざるを得ません。月刊の雑誌は、情報の伝達の早さや、議論や交流のしやすさではネットメディアに到底かないません。また、個人による技術系の動画、ポッドキャスト、ブログにもかなり高いレベルのものがああります。一方で、本会は豊富な専門知識を有する多くの会員を擁していますので、内容の専門性、信頼性、オリジナリティという点では特色を出せる可能性があります。さらに、特集という形で1つのテーマについてのさまざまな人の記事をまとめて提供できることも、雑誌の強みかもしれません。



ん。ほかのメディアと単に棲み分けるのではなく、積極的に連携していく方向もあると思います。各メディアの特性を理解し、この興味深い挑戦と数年間向き合っていきたいと思っています。

ところで、私はこれまでシステムソフトウェアやプログラミング言語という、情報システムの土台に近い分野について研究や教育を行ってきました。土台は着実に進歩し、最近ではソフトウェアを作ることが実に簡単になったと感じます。出来合いの部品をペタペタ貼り付ければそれなりのものできます。ちょっと思いっただけでも、面倒なことは大体、フレームワーク、ライブラリ、プログラミング言語、統合環境、OS、クラウド、Web サービスなどがなんとなくうまくやってくれます。こういった土台はどんどんブラックボックス化され、便利になり、人間に気をつかわせなくなっているので、私もついその存在を忘れて、その上で何をやるかばかりを考えてしまいがちです。しかし、土台の技術をしっかりと維持し、着実に進歩させることも重要であると考えます。基盤技術と応用技術のバランスが取れた状態で分野が発展してほしいですし、そのために会誌が何らかの貢献ができればうれしく思います。

また、当然ながら、会員各位からのご意見を紙面に反映させていくことが重要だと考えています。会誌に対して感じたことを、ぜひ頭の中から外へと放出していただければ幸いです。学会に直接ご意見をくださるのも大歓迎ですし、ソーシャルメディアでぼつりと呟いていただいたことが回り回って学会に大きな影響を与えることもあるかもしれません。稲見編集長、加藤副編集長、中田副編集長をはじめ編集に携わってくださる皆様、そして読者の皆様とともに、会誌を一層盛り上げていきたいと思っています。これからも会誌へのご愛顧をよろしくお願いいたします。

大山恵弘 (正会員) oyama@cc.tsukuba.ac.jp

2001年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士。科学技術振興事業団研究員、東京大学大学院情報理工学系研究科助手、電気通信大学大学院情報理工学系研究科准教授を経て、2016年より筑波大学システム情報系准教授。博士(理学)。システムソフトウェア、ソフトウェアセキュリティに関する研究に従事。